

令和7年度学校経営計画

八王子市立美山小学校

校長 加藤 毅

1. 教育目標

- (1) 考える子 主体的に意欲をもって学ぶ子（重点目標）
- (2) やさしい子 自他の尊厳を認め、他者と共により良く生きる子
- (3) 元気な子 進んで体を鍛え心身ともに健康な子

2. 目指す教師像

- (1) 児童や保護者の話に耳を傾け、児童や家庭の理解に努める教師
- (2) 日々の授業を大切にし、教材研究に努める教師
- (3) 自分の責任を果たすとともに、他の教職員と協力できる教師
- (4) 学校全体の取組を自分事として捉えられる主体的な教師

3. 中期的な目標と方策

- (1) 主体的に意欲をもって学ぶことができる児童を育成するために
 - ①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を通して、主体的に学び続ける力や思考力、判断力、表現力等を育成する。
 - ②個に応じた指導方法の改善や充実に努め、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる。
 - ③言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を始めとする教科横断的な視点に立った資質・能力を高める。
- (2) 自他の尊厳を認め、他者と共によりよく生きる児童を育成するために
 - ①自分の大切さと共に他人の大切さを理解できるよう、自己有用感を育み、差別やいじめをしない児童を育成する。
 - ②多様性に対する開かれた心と自分と異なる意見や立場を尊重する態度を育て、よりよい人間関係を形成できるようにする。
- (3) 進んで体を鍛え、心身ともに健康な児童を育成するために
 - ①自ら進んで運動に親しみ体力向上を目指す中で、目標達成に向けて粘り強く取り組む態度を養う。
 - ②保健指導や食育、日常的に体を動かす活動等を充実させ、健康の保持増進や自主・自律的な生活に取り組む児童を育てる。

4. 今年度の取組目標と方策

- (1) 学力の向上
 - ①「主体的・対話的で深い学び」を実現に向けて、自力解決と児童同士の考えを交流する場面を設定するとともに、他者への説明や発表をする機会を増やす。その際、学習用端末を活用する。
 - ②「短い時間を活用した教科等指導」と美山チャレンジタイムを活用して個に応じた反復学習等を行い、基礎学力を高める。
 - ③国語科で学んだ表現力や総合的な学習の時間に学んだ情報収集能力を他の教科で活用するなど、教科横断的な学習活動を設定する。

- ④教員の多面的・多角的な児童理解と、児童の対話的・協働的な学びを促進するために、生活科や音楽、図画工作等、共通の目標をもつ教科において、二学年合同で授業を行う。

(2) 豊かな心の育成

- ①いじめの未然防止や早期発見・対応のために、自己有用感を育む学級経営や心の教育、アンケート、全員面談を実施するとともに、学校いじめ対策委員会を活用した組織的な対応に努める。
- ②「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」を重点項目とし、道徳的価値に根差した問題について多様な意見をもつ他者と議論し、考えを深める授業を実践するとともに、教育活動全体を通して、道徳的な判断力や心情を育む。
- ③たてわり活動や行事などの特別活動において、話し合いの進め方やよりよい合意形成と意思決定の仕方を学んだり、役割分担や協働して取り組むことの意義や行動の仕方を学んだりして、人間関係形成力を高める。

(3) 健康や安全に関する意識の向上

- ①体育科の授業の工夫・改善に取り組むとともに、休み時間を活用して、持久走や縄跳びなど、体力を向上する取組を行う。
- ②生活のきまり「美山のやくそく」を元にした全学年共通の指導を行うとともに、児童一人一人が基本的な生活習慣を身に付け、自己実現を図っていくための自己指導能力を育成するために意図的・計画的に生活指導を行う。
- ③セーフティ教室や自転車教室、情報モラル教育等を通して、児童が身近な危険の原因や事故の防止について理解を深め、自ら安全な行動が取れる力を育てる。

(4) 特色ある教育活動の推進

- ①川口中学校グループとして「自ら進んで学ぶ、自他の個性を認め共に生きる、心身を鍛え健康な体をつくる、地域と共に学ぶ児童・生徒」の育成を目指し、小中一貫教育の充実を図る。
- ②児童のコミュニケーション力を高め、中学校進学時に人間関係の構築を円滑にする目的で、近隣の上川口小学校と合同で、生活科・社会科見学や体育科の学習、レクリエーション活動等を実施する。

(5) 開かれ信頼される学校づくり

- ①学校の教育方針や教育活動の状況を知ってもらうために、学校公開や保護者会、学校だよりなどを活用し、情報発信を積極的に進める。
- ②地域行事や自然とかかわる体験活動を通して、地域への理解と愛情を育む。
- ③学校運営協議会の中で、学校経営の理解と協力を得ながら、地域と連携した学校づくりに取り組んでいく。
- ④教職員一人一人が危機管理意識を常にもち、報告・連絡・相談を迅速に行うとともに、正確な情報をもとにした危機への迅速・誠実な対応を心がける。また、保護者とは子供の課題を共有しながら組織的に対応する。
- ⑤サービス事故を防ぐために、サービス研修を計画的に行う。また、サービス厳正への意識を喚起するために事例の情報提供を適宜行う。
- ⑥事務・用務・給食担当者はそれぞれの職種に応じた職務に使命感と責任をもって取り組む。